

## 本市の交通関連計画の策定の経緯

平成16年度：さいたま市総合都市交通体系マスタープラン基本計画（以下、「SMARTプラン」）の策定

平成18年度：旧岩槻市の合併に伴うSMARTプランの改定

平成22年度：さいたま市都市交通戦略（以下、「都市交通戦略」）の策定

平成28年度：都市計画マスタープランの策定や交通政策基本法の施行等、交通関連方針を踏まえたSMARTプランの改定

▶ 令和7年で改定から10年が経過するため改定の検討に着手

### ◀ 前回の改定からの社会情勢の変化等 ▶

- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律や第2次交通政策基本計画の策定等の関連法令等の改正
- 新型コロナウイルスの拡大等をきっかけとしたテレワークやEコマースの進展による移動を伴わない活動や場所に縛られない活動が増加の増加
- 人々の暮らしや働き方の行動変容等が起きており、活動と移動の乖離が進んでいる。
- 「MaaS」や自動運転といった新たなモビリティサービスの導入に向けた動きの活発化

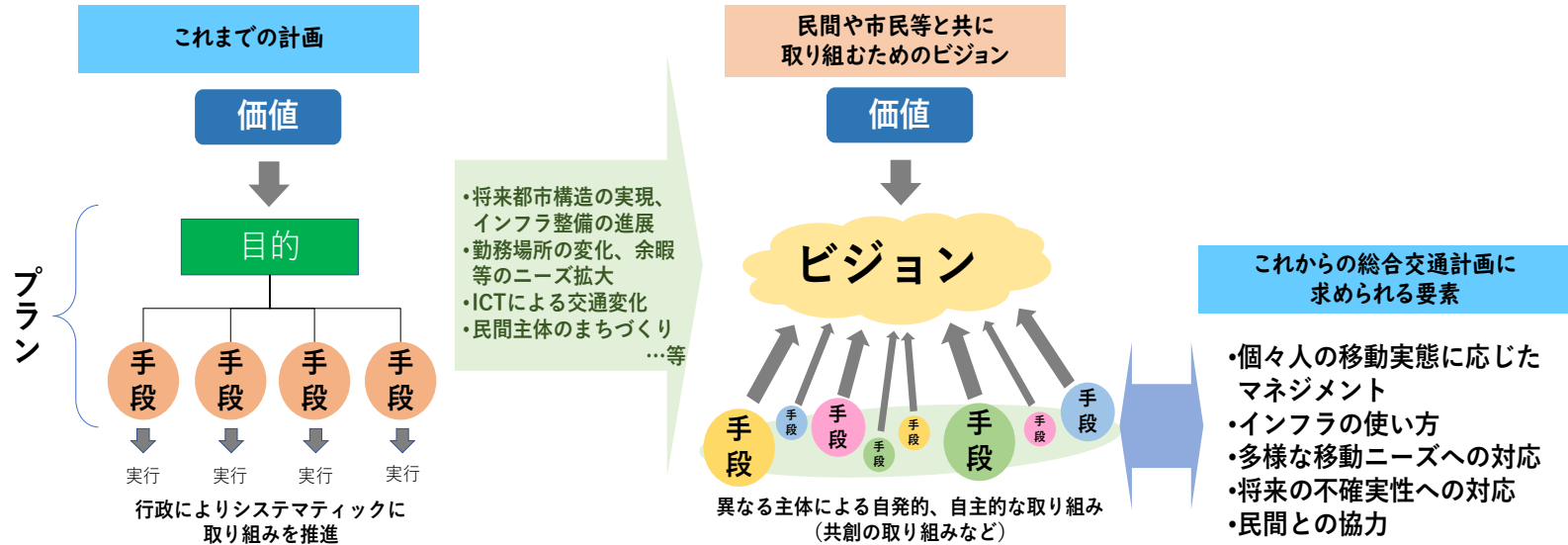
## 今回の改定の方向性

1. バックカスティングによる未来像の検討
2. 市民参加型の計画検討
3. 持続可能なモビリティ計画の検討
4. 望ましい計画体系の在り方を整理

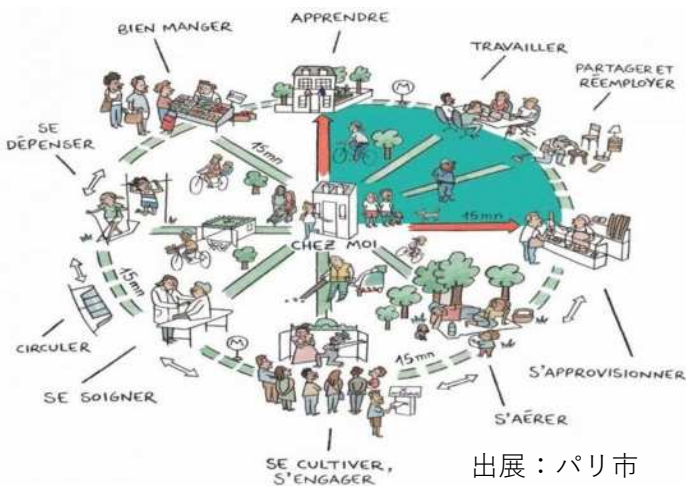
# 1. バックキャスティングによる未来像の検討

## <考え・ポイント>

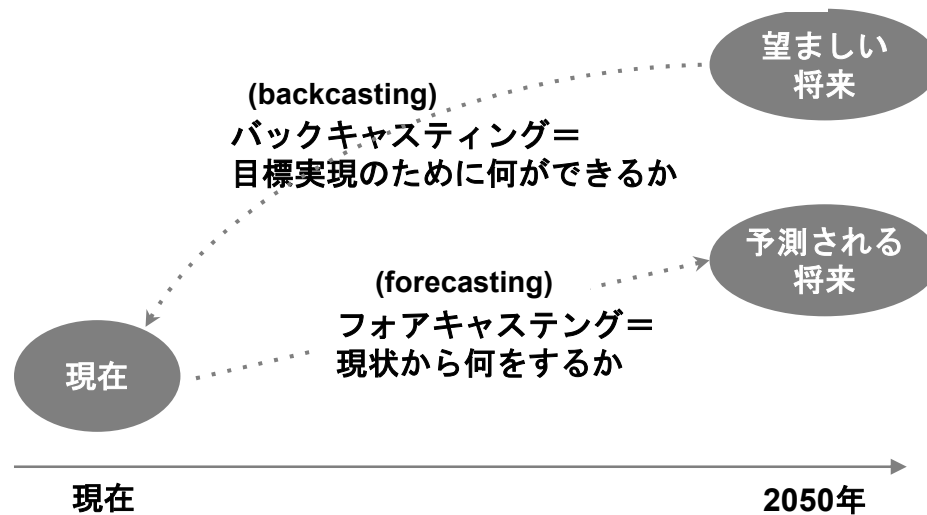
- 目指すべき「未来像（ビジョン）」を明確にし、多様なステークホルダーと共有することが重要
  - 未来像とは、多様な都市交通施策を実施することで、市民の暮らし・活動が、どのように良くなるのかを示したもの（多様なステークホルダーが動くきっかけとなるものとして「未来像」を作成する必要があると考えています）
  - ⇒そのためには、望ましい未来像を描き、目標実現のために何ができるかを考えるバックキャスティングで検討していくことが重要と考えています



未来像のイメージ（パリ15分都市）



出展：パリ市



## 2. 市民参加型の計画検討

### <考え・ポイント>

- 若年層や子育て世代層など将来の公共交通を支える方たちの行動や課題について分析し、それに対応していくことを明確にします。
- それらの分析結果を用いて、多くの市民の方に参加いただき、今後の交通を考えるきっかけをつくることで、自発的な行動変容を促すMM（モビリティマネジメント）につながるような市民参画機会を創出していきます。



内容	対象
オープンハウス	サイクルフェスタ、地域イベント
アンケート	コミュニティバス等の地域組織、インターネットアンケート調査、ホームページ上でのアンケート収集、職員アンケート
ワークショップ	都市と交通の未来像を考える市民ワークショップ (近日予定)

### 3. 持続可能なモビリティ計画の検討

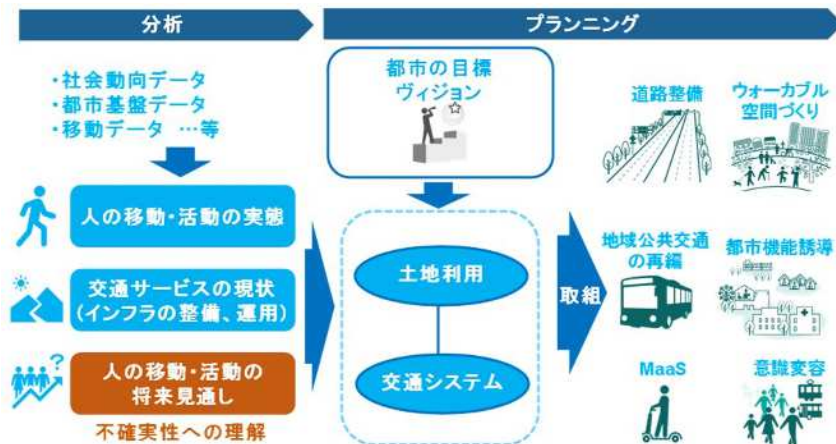
#### <考え・ポイント>

- 価値観の多様化や科学技術の進展による多様なライフスタイルを支えるため、今回の改定では、人に焦点を当てた持続可能なモビリティ計画へと再編していくことを目指します
- アクセシビリティと市民のQoL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を重視し、人の移動・活動の実態等を踏まえた分析を行っていく
- また、深刻化している運転手不足等を踏まえ、持続可能な路線バスネットワークの構築に向けて、維持すべき路線の選択と集中、適切なサービス水準の在り方などについても検討を進める

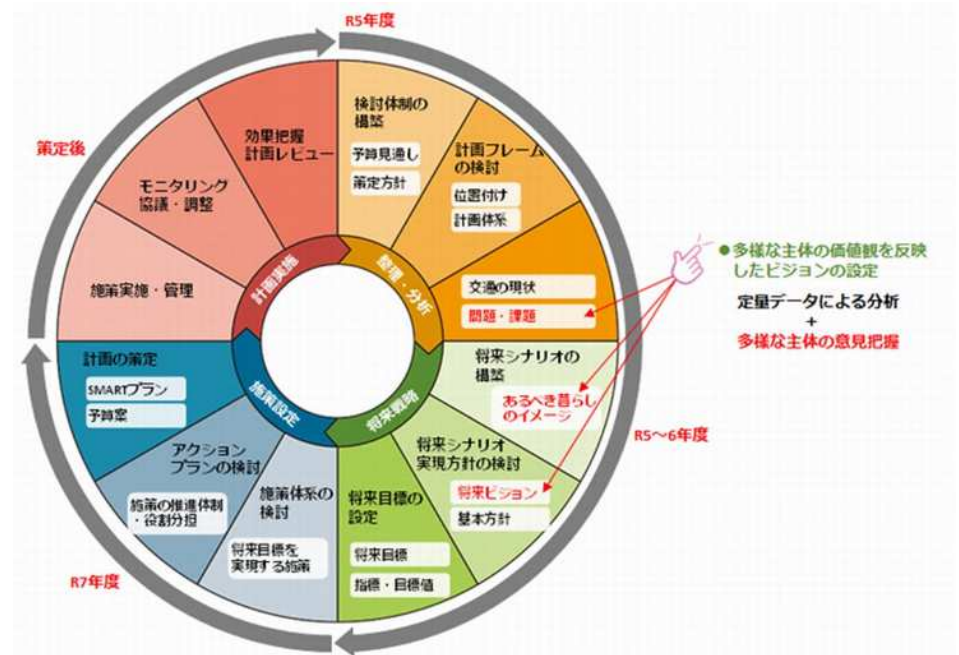
#### ●大型二種免許保有者数とその65歳以上の割合の推移（全国）



#### ●分析のイメージ



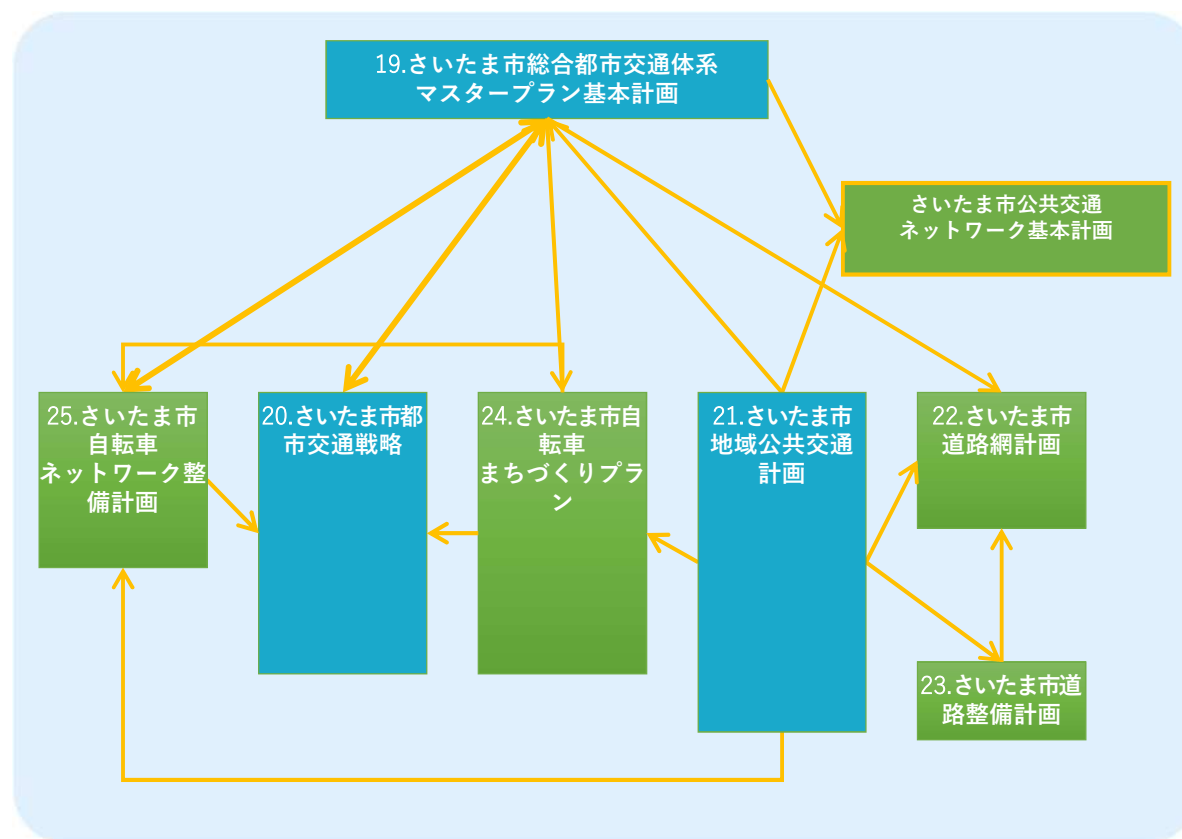
#### ●今後の検討プロセスのイメージ



## 4. 望ましい計画体系の在り方を整理

### <考え・ポイント>

- ✓ さいたま市の交通に関する全体方針は、SMARTプランが担っていますが、関連する計画は時勢や法制定等に合わせて増加しています。
- ✓ 相互官営も複雑化していることから、計画の統合、分野ごとの計画の体系化を進めていきたいと考えています。
- ✓ 市民・事業者・行政が見て分かりやすい計画となることで、目的やビジョンを共有しやすい計画へと再編していきます。



これらの計画では、記載内容にも重複が見られ、それぞれの計画ごとにPDCAや進捗管理を行っている状況

## 今後のスケジュール

